

スクラム

scrum

◆ 尿道ステント留置術のご紹介 ◆

超高齢化社会の到来に伴い、前立腺肥大症による尿閉の患者さん、さらには神経因性膀胱による尿閉の患者さんの数が増えてきています。尿閉状態まで進行してしまうと、内服療法には反応せず、手術療法も体力的な条件や膀胱機能の廃絶に伴い適応にはならない患者さんも多くなっています。これらの患者さんには従来バルーンカテーテル

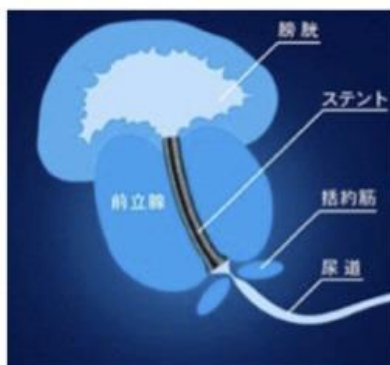
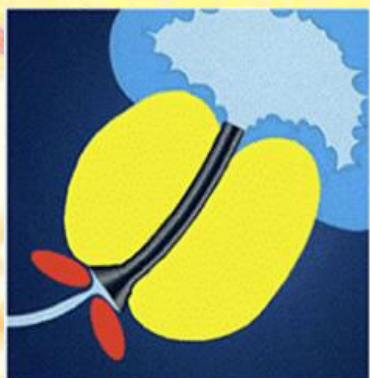
泌尿器科医長 森下 裕志

留置を選択するしかありませんでしたが、現在尿道ステント留置術という選択肢も出てきています。

○尿道ステント留置術とは○

尿閉や排尿障害の有る方の前立腺部尿道に、尿道ステントを挿入留置し、短時間で改善する低侵襲的保存療法です。尿道ステント（メモカス028）はチタン-ニッケル合金製の形状記憶型尿道ステントです。前立腺の動きにも追従できるよう、非常に柔らかくコイル状に巻かれた金属製の製品で、ほとんどのサイズの前立腺に対応できるように種類も豊富に30ミリから40、50、60、70、80ミリと6種類用意されています。メモカスの留置は、局所麻酔下にレントゲン透視室で行います。留置に要する時間は30分前後で、留置後その場で排尿確認ができます。当科では1泊2日の入院で行っています。通常前立腺部尿道の長さに合わせてステントの選択を行いますが、本人の意識下で自排尿ができず、おむつ内の失禁管理を行う場合は尿道括約筋を超えて前部尿道まで留置するため、通常のタイプより長めのステントを選択することとなります。

バルーンカテーテル留置は煩わしく、カテーテルの定期交換が必要であり、患者さんのQOLも著しく低下します。従来バルーンカテーテル留置しか選択肢がなかった患者さんに尿道ステントという選択肢もありますので、お気軽にご相談ください。



登録医便り

たけうち内科クリニック

院長 たけうち まさゆう 竹内 正勇 先生

当院は、登録医の先生方との連携を密にし、切れ目のない医療の提供に努めています。

「登録医便り」では、そのような登録医の先生方の声を紹介していきます。

内科クリニックとして涌波で診療を行い14年となりました。専門の消化器内科以外にもいろいろな病気・健康の相談ができるクリニックとなれるよう心がけています。日常診療では外来診療のほかに、主に昼休み時間を利用して、産業医活動、訪問診療、大腸内視鏡検査・ポリープ切除など行っています。胃カメラは経鼻も選択可能で、午後からも行っています。お気軽にお問い合わせください。

市立病院様には特に開放病床利用で、いつも大体2～3人、多い時で7～8人が大変お世話になっています。先日は家族同然の間柄であった90歳の伯母の看取りをお願いしました。自分が開放病床の副主治医でありながら同時に家族のキーパーソンの一人であり、今話題のACP（アドバンス・ケア・プランニング、人生会議）に関わるといった貴重な経験をさせていただきました。病棟に長時間滞在し、紹介患者様に対し多職種連携のうえ丁寧な診療およびケアをしていただいていることを再認識致しました。この場をお借りしまして、関係者各位に御礼申し上げます。



住所 金沢市涌波1丁目7-1

電話 076-232-7822

休診日 水曜・土曜の午後、日祝日

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	/
14:30～18:00	●	●	/	●	●	/	/



◆ 開放病床利用患者さまへの アンケート結果について ◆

当院では、例年開放病床を利用された患者さまを対象としてアンケート調査を実施しております。今回その一部を紹介いたします。

1) アンケート実施方法

- ・ 対象：平成30年4月1日から平成31年3月31日までの開放病床退院患者
- ・ 回収率：28.9%（退院患者249人中72人回答）

2) アンケート結果

① かかりつけ医の診療

あった	なかった	わからない	無回答	計
44	22	5	1	72

② かかりつけ医と病院との共同診療について

非常に満足	19
満足	22
どちらでもない	6
不満	0
非常に不満	0
無回答	25
計	72

③ 今後の利用について

利用したい	52
どちらでもよい	14
利用したくない	3
無回答	3
計	72

④ その他のご意見（自由記載）

- ・ 病院とかかりつけ医が情報共有できるので心強い。
- ・ 連絡が密で、細部に渡って行き届いた対応であった。
- ・ 入院期間が短かったので、かかりつけ医の来院は一度で十分であった。
- ・ 退院後の診療がスムーズとなるように感じる。
- ・ 入院中かかりつけ医の顔が見られて嬉しかった。
- ・ 主治医が二人いるとどちらに相談すればよいのか迷う。
- ・ かかりつけ医の訪問はなかった。

貴重なご意見をたくさんいただきました。
今後の開放病床運営に役立てていきます。

◆ 小児科より ◆ ～病児保育室「さくら」開設しました～

小児科長 瀬野 晶子



当院は第二種感染症指定病院で、小児科でも新型インフルエンザ流行時の初期対応を受け持ったり、結核病床を有していることから、結核の接触者検診やコッホ現象などにも対応してまいりました。そんな中で、予防接種や乳児健診等を含めた子育て支援の重要性を改めて感じています。

このたび、3月より金沢市内8番目の病児保育室として、「さくら」が、当院に併設し開設されました。対象は生後6か月～小学6年生までで、定員は6名、月曜日～金曜日の8時～18時の間お預かりしています。場所は、当院東館3階で、2部屋の隔離室を有しています。開設当初から、手足口病の流行に伴い、利用していただいています。

日頃から当院の職員からの病児保育の要望を耳にしたり、また、当院に通院中の保護者の方から他の病児保育室利用のための医師連絡票を依頼されたときのお話などから、当院でも病児保育室を開設する必要性を感じており、やっと実現したという思いです。

病児保育とは、単に子どもが病気の時に、保護者に代わって子どもの世話をすることだけを意味しているわけではなく、病気にかかっている子どもにも、子どもにとって最も重要な発達のニーズを満たすために、専門集団（保育士、看護師、医師など）によって保育と看護を行い、子どもの健康と幸福を守るためにあらゆる世話をすることとされています。

当面は、保護者の方々からのご意見もお聞きしながら、子どもたちが安全に安心して過ごせる快適な環境づくりを目指し、さらに今後スタッフ一同研鑽を積みながら、先輩病児保育室の方々のご指導を仰ぎ、連携をとって運営していきたいと考えています。

よろしくお願いいたします。

病児保育室

さくら

子どもが急に病気に…
でも仕事が終わらない…

病児保育室を利用してはいいのですが？
保護者の皆様が安心してお仕事ができるよう、
病児保育室で、看護師と保育士のスタッフがお子様一人ひとりの病状や体力に合わせてケアをします。
まずは一度お気軽にお問い合わせください！

TEL. 076-245-7330

金沢市立病院



金沢市立病院 地域連携室

TEL:245-2626 (直通) FAX:245-2693 (直通)
お問い合わせ・ご予約などお気軽にご連絡ください。

<http://kanazawa-municipal-hosp.com/>